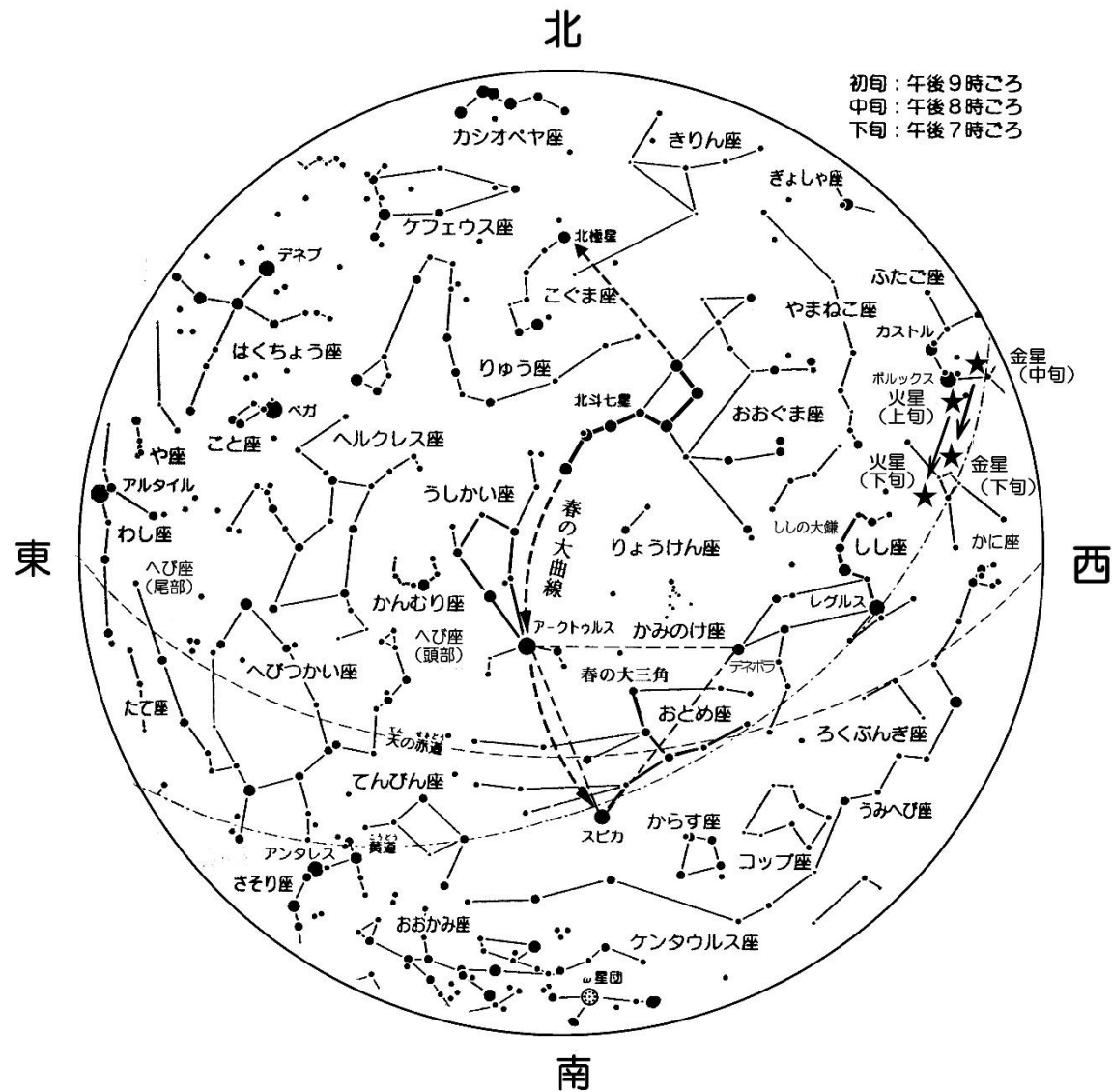


# 令和3年 6月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



初旬：午後9時ごろ  
中旬：午後8時ごろ  
下旬：午後7時ごろ

今月の星空では、まず北の空の7つの星でできる「スプーン」のような星の並び、北斗七星を見つけましょう。この「スプーン」の持ち手のカーブを南へのぼしていくと、うしかい座の1等星アークトゥルス、おとめ座の1等星スピカが見つかります。北斗七星からスピカまでのカーブを『春の大曲線』といいます。うしかい座はアークトゥルスから北に「逆さまのネクタイ」のような星の並び、おとめ座はスピカから「アルファベットのyの字」のような星の並びが目印です。これら2つの星と2等星のデネボラを結んでできる三角形が『春の大三角』です。デネボラは「ししのしっぽ」という意味で、ここにはしし座があります。しし座は、デネボラの西の方で輝く1等星レグルスから「?マーク」を裏返したような星の並び『ししの大鎌』が目印です。うしかい座の東の方には、小さな半円形のかんむり座があります。明るい星はありませんが、整った形をしているので街明かりの少ないところでは見つけることができるでしょう。

<見ごろの惑星> (☆マークは、今月のおすすめです。)

- 水星(3.3等前後):おうし座付近 観察に適さない。
- ☆金星(-3.9等前後):おうし座→かに座付近 日の入り後、西北西の低空でひととき明るく輝く。
- ☆火星(1.8等前後):ふたご座→かに座付近 20時頃、西の空で赤っぽく輝く。
- ☆木星(-2.5等前後):みずがめ座付近 夜明け前、南の空で明るく輝く。
- ☆土星(0.5等前後):やぎ座付近 夜明け前、南南西の空で輝く。

## 注目の天文現象 ～金星と細い月の接近と地球照を楽しもう～

今年の1月まで明け方東の空で輝いていた金星が、今月に入り、宵の西の空で観察できるようになってきました。この金星は12月に向けて明るさを増していき、見ごろを迎えていきます。そして6月12日には日の入り直後の西北西の空で、見え始めたばかりの金星と細い月が接近して輝き、より一層目を引きまします。この時、月と金星の見かけの距離は、月の大きさ3つ分以下と非常に近くなります。2つの天体は低い空で輝いており、日没後1時間半程度で地平線に沈んでしまうので、西の方向に高い建物がない場所で、日の入り直後の空が明るい時間から観察してみてください。

また、この日の月は月齢2.0と非常に細くなっています。空が暗くなり、目をよく凝らして見てみると、月は太陽に照らされて明るく光っている部分だけではなく、暗い部分もうっすらと見えるはずですが、これは地球に反射した太陽の光が月の暗い部分に当たり、うっすらと見える「地球照」という現象です。地球照は新月前後の細い月で見えやすくなります。うっすら光って見える部分の明るさは月齢によって変わっていきます。双眼鏡などを使えば、半月の頃まで楽しむことができますので、その明るさの変化も楽しんでみてください。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
2	水	☾ 下弦 (16:24)	18	金	☽ 上弦 (12:54)
10	木	● 新月 (19:53)	21	月	夏至 (久留米市の日の出 05:09、日の入 19:31)
12	土	月が金星に接近	25	金	☉ 満月 (03:40)